

○3番（枝 史子君） 皆さん、こんにちは。議席番号3番、枝史子です。傍聴席の皆様におかれましては、本日は足元の悪い中、足をお運びくださいますようお願いいたします。

それでは、議長により発言の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問を進めてまいります。私の今回の一般質問は、ワールドスケートゲームズ及びワールドカップについての質問です。その内容としましては、まず1つ目に大会の概要及びどの程度の大会規模を見込んでいるのか。続いて2つ目に、大会運営組織には、どのような企業・団体が参加する見込みか。続いて3つ目として、開催に当たってかかる費用の見積り及びその負担割合はどのようになるのか。そして、最後に4つ目として、ワールドスケートゲームズが当町にもたらす変化と将来像について、どのようなものを描いているのかという4点について町の見解を問うというものです。

報道でも取り上げられていましたが、先月の2月13日、当町はスケートボードやインラインスケート、キックボード等のアーバンスポーツの国際大会であるワールドスケートゲームズと、それよりも競技種目を絞った大会であるワールドカップを境町を拠点として開催するという覚書を、これらの競技の国際競技連盟であるワールドスケートと締結しました。ワールドスケートゲームズは2030年に開催、そしてワールドカップは今年の10月に境町で開催し、来年以降も毎年境町で開催していくと伺いました。実際私もその場におりまして、調印式を見届けておりました。そして、その場でなされた大会についての説明や翌日の新聞記事等を読んで、どのような大会になるかを調べてみましたが、どうしても分からないところがありました。それが、大会運営や組織、そして経費が幾らかかるのかといった予算に関わることです。

現在までに報道されている情報だけだと、何となく華やかで楽しい大きなスポーツイベントが町にやってくるといった、ふんわりとしたことしか想像できないのですけれども、実際に大会を動かすに当たっては、もっと現実的な組織や予算といった骨格が存在します。そして、その骨格のほうが私たち住民の生活にダイレクトに影響を与えることから、町民の皆さんの中から、2万4,000人の町に数万人もの人が訪れるとなるとどうなるのだろう。また、どれだけ税金がかかるのだろうといった、自分たちの生活と結びついた疑問を持つ方もいらっしゃると思います。なので、ワールドスケートゲームズ及びワールドカップがどのような大会であるのかということを質問したいと思います。

まず1点目、大会の概要及びどの程度の大会規模を見込んでいるのかですが、これは先ほど申しましたが、各大会の開催年や競技種目といったデータにまつわるものです。そして大会規模ですが、これはこれから先の治安対策や騒音対策、またはごみ対策やオーバーツーリズム対策等に直結するものだと思いますので、これは町民の皆さんも関心があるのではないかと思います。ですので、過去の大会の実績を踏まえて、どの程度の来場者数を見込んでいるかをご回答ください。

続いて2点目、大会運営組織には、どのような企業・団体が参加する見込みかですが、例えばオリンピックであればオリンピック組織委員会がつくられたように、大きなスポーツイベントはこのような組織委員会が大会運営を担っているケースが多いのではないかと考えます。そして、その場合どの

ような人物や企業、団体がその中に参加するかというのは、その後の業務委託が公正に行われるかにも関わることだと思いますので、こちらも回答いただきたいと思います。

そして3点目、開催に当たってかかる費用の見積り及びその負担割合はどのようなものかですが、例えば東京オリンピック2020の場合、大会経費は約1兆7,000億円だったと会計検査院が報告していますが、そのうち2割に当たる3,641億円を国が負担し、約3割5分に当たる5,965億円を都が負担しています。そして、東京オリンピック大会経費の支出内訳を見てみると、広報に関わる支出は組織委員会が負担しているけれども、オリンピック後も使うインフラや建造物といったものは、国や都が負担しています。このような例を見ると、ワールドスケートゲームズ及びワールドカップにおいても、それに伴うインフラ整備に関しては町が負担することになるかと考えられることから、その見積りを町民の皆さんに示すことが大切なのではないかと思います。

なお、これらの内容は、「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」という指針の中にも取り上げられているものです。このガバナンスという言葉は、組織において使われる場合は、健全な組織運営のために組織自らが管理体制を整えることといった意味を表します。これは、東京オリンピック2020において、大会組織委員会の元理事長の受託収賄容疑事件や、入札における受注調整容疑事件が発覚した反省を踏まえ、今後このような大規模な競技大会が開催される際には、クリーンで公正な組織委員会等によって運営がなされるよう、人材の配置やお金の流れといったことを主体的に開示することを求めており、実際に近年の国際大会においてはこの指針を遵守しているかどうかを組織委員会自らがチェックして、その結果をそれぞれの大会ホームページで公開しています。このような流れもあることから、組織委員会がどのように大会運営をしているのかを町民の皆さんに開示することが必要だと考えます。

そして4点目、ワールドスケートゲームズが当町にもたらす変化と将来像について、どのようなものを描いているかですが、地方自治法第1条2に、地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることを目的としてとあることから分かります。町の事業は最終的には町民の福祉の増進、つまり町民の皆さんに恩恵があり、町民の皆さんの幸せな暮らしに寄与することを目的としているわけです。

この原則に照らし合わせると、ワールドスケートゲームズ及びワールドカップもそれを開催するに当たり、町民の皆さんに何らかの恩恵をもたらし、幸せな暮らしに結びつくものだと考えます。町としては、ワールドスケートゲームズ及びワールドカップが町民にどのような恩恵をもたらすとともに、町全体にどのようなよい変化をもたらすと考えているのか、町が描く将来像をご回答いただければと思います。

以上、1項目4点の質問について答弁を求めます。

○議長（倉持 功君） ただいまのワールドスケートゲームズ及びワールドカップについての質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

〔町長 橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君） それでは、枝議員さんのご質問にお答えします。

何か頭の中で膨らんでしまっているのかなと、例えば2021年にやられた2020オリンピックとか、今年やる名古屋のアジア大会とか、そんなのを思い浮かべているのかなと。枝さんには、何回も誘わさせていただきました。モンペリエのワールドカップに行きましょう、さらにはローマの大会に行きましょう、行った方は分かっていると思うのです。そこまで大きい、そこまでばかげた話ではないわけです。例えば、今もう施設あるわけです。その施設を活用してやろうというわけです。僕もうこの11年やってきましたけれども、無駄にお金を使ったりとか、それからマネジメントをしないとか、町民に知らせないなんてこと、議会の皆さんに知らせないなんてことはやっていないのです。決まったらいつも皆さんに説明をして、今ネゴシエーション中なわけです、もっと安くならないかとか。要は、例えばここで、ではある企業がこの土地を買ってくれとって7万で来たと。ここで7万ですなんて言ったら3万にはならないわけです。そういうことをやりながら、11年間住民の皆さんの負担がないようにずっとやってきたのです。お金のことを考えて、いろんなことを考えて。さらに言えば、花火大会行ったことありますか、30万人来ているのです。黒字なのです。今、住民の皆さんがあれなくしたほうがいいって言っているのですか。だから、始まる前から、見たこともない、行ったこともないのに、想像で物を言うというのは、僕はよくないと思うのです。やっぱり実際にやっているものがあるわけですから、見て、これを持ってきたときにどういうことが起きるのか、問題点があるのであれば、では渋滞のときどうしようとか、僕は、でも花火大会なんかは渋滞して成功だと思っているのです。渋滞をなくするのが問題ではなくて、渋滞をしたということは、それだけ人が来たと、それだけの人が来て境町にお金を落としていったと、そういうことを思っているのです。

だから、例えば境町の特殊な仕事というのは、普通だったら、先ほど枝さん言われましたよね、住民の福祉、これ自治体の基本的なところですよ。それを基にやっているのだったら、民間企業を誘致したり移住者誘致したりしないですよ、町の人だけにお金使うのだから。でも、それではこの先福祉のお金がなくなってしまうから、だから移住者増やしているわけです。そうして明石市はお金が回るようにして、福祉のお金に使っているわけです。先を見ているわけです。だから、今やることに對して、決まったらいつも報告するに決まっているではないですか。決まっていなくて、まだ報告していないわけです。住民に知らせるべきでしょうって、知らせるに決まっているではないですか。組織もつくるに決まっているではないですか。さらに言えば、そんな大きいお金ではないわけです、やるのに。例えて言うなら、境町だけでやる仕事なわけではないわけです。2030年に、このワールドスケートの大きい大会をやりたいと、それは各2年に1回、上海で行われたり、ローマで行われたり、その日本大会を境でやると言ってくれているわけです。みんな誘致合戦やっているのです、今。今南米のどこでしたか、ウルグアイかな、南米のウルグアイ大統領が出てきて、もううちに来てくれてやっているのです。でも、多分大統領が来ているところと違う都市のところ、南アフリカも今手を

挙げていて、誘致合戦やっているのです。それは、2年後、4年後とかの話です。うちはまだ2030年にやってくれるって会長が、ここに来て気に入ったから、東京大会は境でやると言ってくれているのです。世界から1万2,000人の選手、それからスタッフ6,000人、合わせて2万人、経済効果が300億以上と言われているのです。境に泊まるわけではないです、泊まれないですから。境にも泊まるし、それから近隣にも泊まるし、さらには東京にも泊まるわけです、1時間で来れますから。そういうことをこれから考えてやっていくわけです。だから、今すぐにこれどうなっているのだ、あれどうなっているのだ、これは幾らなのだと、この間知事とも話しました。知事、すごくいいことだと、こんな世界大会を茨城に持ってこれる、茨城県としても協力したい。ただ町長、これ幾らかかるのだと、そのうち県は幾ら負担するのだと、教えてくれと。今試算しているところです、県にもお願いしなくてはならないから。県も、それが出たらいいよと言ってくれている事業なのです。今の枝さんの話だと、どうしたらいいのですか、やめたほうがいいのか、何もしないほうがいいのか、やめたほうがいいのだったら、みんなで議会の皆さんと相談して、やめるって決断していただいたらやめてきますよ、僕幾らだって。町の人に迷惑かけることやりたくないですから。町の人に迷惑かけるのだったら、今の施行だってやめてしまいますよ、固執していないですから。何をしたいのだという、11年、12年見てきてもらって、信じてもらっていると思うのです。無駄に借金増やさないので、借金減っています、11年連続で。貯金もこれだけ増えています。町の人にいい影響がないのだったらやらないです、最初から。

子供たちも、BMX今度始まったり、インラインスケート始まって、インラインスケートなんか、この間は日本代表に呼ばれて12歳の子が行っているわけです。もしかしたら2030年には、境町出身で境町で育った子がこの世界大会に代表で出るかもしれないです。そしたらみんな応援するのではないですか。喜ばれるのではないですか。うれしくないですか。子供たちのためとか、それから地域の人のためにやっているわけです。僕のためにやっているのではないです。そのためにローマ行ったり、フランス行ったりしているのです。暇ではないですよ、意外に僕も。そうやってやっているわけです。だったら、やっぱり行ってみないと。見て、どういうことやってこのまちにどういう影響があって、どういうことをやっているかを見てもらわないと、行った方は分かります。もう子供たちだって、日本の子供たちもそうです。参加していて、もうすごい人來ているのです。すごい人たちがそれを応援していて、すごくいい雰囲気。それなので、オリンピックの競技にもなったわけです、東京オリンピックで初めて。次のロサンゼルスもなるわけです。だから、やっぱり行って、見て、しかもこれはどのぐらいの経費かかって、例えばモンペリエだったら2億円なのです。もうすごい人來ているのです、何十万人って。だから、それに州もお金を出したりするわけです。例えば、今我々もスポーツ庁の長官賞を4年連続で取っていますけれども、国の補助金とかもやっぱり取っていくわけです。議長さん、ちょうど自動運転車入れるときに唯一反対しましたけれども、お金かかるから反対だと言ったのですよね。でも、僕は高齢者のためだからやるべきだと言って、やったわけです。今では、もう10分の10の

補助をいただいているのです。それが16か所に、全国に広がっているわけです。だから、2030年のワールドスケートの大会も境町だけでやるのではなくて、今はつくばみらい市さんとか守谷市さんとか、静岡県の小山町とかにも声をかけています、みんなでやろうよって。1つの町で、それを背負って全部やるのではなくて、みんなでやろうよって、笠間にも話を市長に声かけました。なので、お金のことは当たり前だし、子供たちにそういう夢を与えることも重要なことだし、それをどういうふう負担なく、さらには逆に言えば経済効果でもうかるかもしれない、そのように転換させるかが我々の手腕なわけです。そういうことを12年間やってきたつもりなのです。だから、問題点を指摘していただくのはありがたいけれども、これから決まって皆さんに全部説明したときに、これはこうしましょうよとか、お互いにみんなで同じ方向を向いてやっていかなかったら、よくならないです。ほかの市町村で、境町ができるのに何でほかできないのですかって、足の引っ張り合いなのです、本当に。いいことなのに、町民のためになるかどうか、地域のためになるかどうか、茨城のためになるか、日本のためになるかを判断してやっているのに、あの人がこういうこと持ってきたからとか、そんなことで足の引っ張り合いするのです。だから、そんなことよりも、やっぱり10年先、20年先、子供たちの未来を見てどういう投資をしていくのか、今英語教育なんかめっちゃくちゃ投資しているのです。あれもそうです、こんなに金かけてって。普通だったらやらないかもしれない。でも、今はそのおかげで、先ほど岩崎さん言ったように、カナダの空港で子供たちが英語でチェックインしているのです。こんなことは今までなかったです。英語ができることによって、年収が3割増えるわけです。同じ美容室、理容室、理容師になりたい、床屋さんになりたい、美容師になりたいでも、英語がしゃべれるだけで、ではそれは今まで境町で働かなくてはならない、もしくは東京で働いたかもしれないが、シンガポールでも働ける、さらには韓国でもニューヨークでも働ける、そうすると所得が変わるわけです。そのために、子供たちが活躍できるように我々は投資しているのです。これもそういう一環なので、ぜひ1回そういったときには、今回選挙があつて行けないというふうには、5月にフランスのモンペリエでワールドカップの初戦がございます。僕は行く予定でありますけれども、子供たちも連れて。今回の引っ越してきてくれた斎木君が、年齢が達したので出るそうです。最年少で出て、多分優勝するかもしれないですね、世界チャンピオンになってしまうかもしれない。それをやっぱり地域としては応援してあげたいし、地元開催のときに彼らが優勝したらすごいことではないですか。今世界チャンピオン3人いるわけです。日本チャンピオンも四、五人いるわけです。それがこの境町で開かれるって、子供たち喜んでるわけです。さらには、岡山とか兵庫にいる子供たちが境町に引っ越したいけれども、親の関係で引っ越せない、だから練習だけ1か月合宿してここに住みたいとか、そういう子供たちが今いっぱい出てきているわけです。それをみんなで応援していこうというのが、多分普通だったらこのワールドスケートは、千葉県とか東京都とか大阪が取っていくわけです。当たり前ですよ、世界で人を呼べるイベントですから。それを会長が、ここだと言って境に決めてくれたのです。それがどれだけ非常に心意気があることなのかということもご理解いただきたいし、要は日本大会な

のです、境で開かれるのが。日本の人たちが、みんなここに来るわけです。なので、ちゃんとそういう組織委員会もつくらなくてはならないでしょうし、ただやっぱり頭の中で、アジア大会とか、それからオリンピックのようにそんな大きい大会ではないのです。しかも、多分エックスゲームよりも大きくないと思います。なので、やっぱり見ていただいて、でもこんなに人が来るのだ、しかもこれだけのスポンサーもついて、こんなに来るのだということを見ていただいた上で、いろんなところを指摘していただくのが本来の質問になるのかなというふうに思っておりますので、この後担当部長から先ほどの質問については全部報告をさせますけれども、やはり実際に見て、実際に幾らかかったか見て、それを境町に持ってくるわけですから、もうやっているところがあるわけですから、その中でこういうところどうなっている、こういうところ改善していこうという質問でないと、空想の中ではよくならないので、やっぱり空想ではなくしっかりと実際に自分の目で見て、それを境町でやった場合にどうなるか、さらには、先ほど言ったように花火大会でもう30万人対応していますから、そんなには来ないですから、30万人も。なので、あのイベントよりももっとちっちゃいですから、そういったこともご理解いただいた中でご質問していただくとありがたいなというふうに思っていますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、担当部長から報告をさせていただきます。

○議長（倉持 功君） 次に、企画部長。

〔企画部長 佐野直也君登壇〕

○企画部長（佐野直也君） それでは、枝議員のワードスケートゲームズ及びワールドカップについての1点目、大会の概要及びどの程度の大会規模を見込んでいるかのご質問にお答えをいたします。

まず、ワールドスケートの覚書ですけれども、先ほど枝議員のほうからありましたように、町では今年2月の13日、スポーツを核としたまちづくりの一環として、スケートボードやローラーフリースタイル、スクーター競技など、ローラースポーツの国際的な統括団体であるワールドスケートと、今年から開催される世界大会などについて、町を拠点開催地とする覚書を締結したところでございます。

次に、大会の概要等でございますけれども、大会の概要につきましては、まず今年、2025年から2029年の5年間、ローラーフリースタイルとスクーターの2競技を実施する世界大会であるワールドカップを境町アーバンスポーツパークで開催をいたします。さらに、2030年にはワールドスケート参加の複数の競技種目を実施する世界最高峰のローラースポーツ大会、ワールドスケートゲームズを茨城県内などを中心に開催する予定でございます。

このワールドスケートゲームズにつきましては、2年ごとに開催されておまして、第1回大会を2017年の9月に中国南京市で、2019年の7月にはスペインのバルセロナで第2回大会、2022年の11月にアルゼンチンのブエノスアイレスで第3回大会、そして昨年9月にイタリア、ローマなどを中心とした4都市で第4回目の大会が開催されておまして、昨年の大会におきましては橋本町長と担当職員で現地を視察するとともに、ワールドスケートのサバティエーノ・アラク会長と懇談をしてきたとこ

ろでございます。

なお、覚書締結式の翌日である2月の14日には、橋本町長とアラク会長を含むワールドスケートの関係者の皆様とともに大井川茨城県知事へ表敬訪問し、大会の概要などを説明するとともに、大会開催の協力をお願いしてきたところでございます。

次に、大会の規模ですけれども、大会規模につきましては、ワールドスケートによりますと、今年10月に開催予定のワールドカップでは2競技で約600人の選手、スタッフの参加が見込まれるとのことでございます。また、2030年のワールドゲームズでは、例えば昨年のイタリア大会を例に挙げますと、世界各国から1万2,000人の選手、コーチや団体、観客等合わせて約2万人が訪れまして、300億円を超える経済効果があったとのことでございます。

次に、2点目、大会運営組織には、どのような企業・団体が参加する見込みかのご質問にお答えをさせていただきます。まず、大会運営組織でございますけれども、大会運営組織は大会主催者であるワールドスケートのほか、境町アーバンスポーツパークの指定管理者であるABCプランニング株式会社などが主体となって組織がつくられていくものと存じますけれども、後援や協賛などの形で町内企業や各種団体などにご協力をお願いすることも検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、3点目、開催に当たってかかる費用の見積り及びその負担割合はどうかのご質問でございますけれども、先ほど町長のほうからもありましたように、費用の見積りや負担割合につきましては現在いろいろ交渉しているところということでございまして、そのほか国の補助金やスポンサー、協賛の獲得、またはチケット収入などで極力町の負担がないように、そのような方法を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、先ほど枝議員さんのほうからご指摘のありました、「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制の在り方に関する指針」につきましては、令和5年3月にスポーツ庁から出されたものでございますけれども、今年東京で開催予定の世界陸上ですとかデフリンピック大会、来年愛知県の名古屋市で開催のアジア大会などの事例もWEBサイトで見ることができますので、このような事例を参考にしつつ、議員の皆様ともご相談させていただきながら、ワールドスケート及びABCプランニングなど関係団体、関係機関とも連携を密にして、大会開催に向けた検討を進めてまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

次に、4点目、ワールドスケートゲームズが当町にもたらす変化と将来像について、どのようなものを描いているのかのご質問にお答えをさせていただきます。まず、当町にもたらす変化でございますけれども、町にとってアーバンスポーツパーク整備当初からの目標であった世界大会の開催というのは、大変重要な意義を持つイベントであり、地方創生に大きく寄与するものと考えております。特にワールドスケートゲームズにつきましては、先日の締結式でのアラク会長の話では、ちょっとこれは重複しますが、世界各国から1万2,000人の選手、スタッフ、2万人も観客が訪れるなど、そ

ういったことが予想されるなど、選手や観客などとの交流を通じて新たな文化や価値観に触れる貴重な機会となることと、経済効果は約300億円規模に上るということでございますので、町にもたらされる効果は極めて高いものと考えております。

また、参加選手のSNS総フォロワー数は4,000万人とも言われているため、例えば選手に動画を作ってもらい、SNS等を通じて町をPRしてもらうなど、様々な取組も検討してまいりたいというふうに考えております。

そして、今回の覚書締結を受けまして、境町に移住した選手の声を紹介させていただきますと、まず昨年のイタリアで行われたワールドスケートゲームズで、これのローラーフリースタイルの部で優勝した宮尾佳帆選手ですけれども、「世界大会が開催される、夢のような話が現実になるなんて。日本で他国の選手とセッションできることや、いつも応援してくださっている方々に会場で見ていただけることも、とてもうれしいです」とおっしゃっておりまして、また同種目の男子の部で優勝した境町地域おこし協力隊員の安床武士選手からは、「日本のローラーフリースタイルにとって大変うれしいニュース、ぜひ注目してもらいたい。大会が開催される国、地域では、新しいスケーターもたくさん育ってきた、とても楽しみです」との声をいただいているところでございます。

次に、将来像についてでございますが、これまでスポーツを核としたまちづくりを推進し、国際基準の本物の施設整備とインラインスケートの世界チャンピオンなど、一線級の地域おこし協力隊員を採用しまして、無料体験会やスクールを開催するなど、ハード、ソフトの両面でアーバンスポーツの振興に取り組んできた結果、BMXジャパンカップなどの大会誘致や、近年では町を練習拠点とするため、インラインスケートの世界チャンピオンやBMXの日本チャンピオンなど、家族が移住するスポーツ移住も定着してきたところでございますので、世界大会開催を機に、さらに移住定住の流れが加速することを期待しております。

さらには、大会を通じて若い世代にアーバンスポーツへの関心を高めてもらい、次世代の選手育成にもつなげ、未来のオリンピック選手が境町から誕生する、そういった土壌を築いていきたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いをいたします。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） 残り5秒ですけれども、何か一言ありますか。大丈夫ですか。

以上で枝史子君の一般質問を終わります。